

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局
	氏名	局長 望月 哲也

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
政策の目的	【市民の運動・スポーツ実施率の伸び悩み】 ○週1回以上スポーツを行っている成人の割合は、51%にとどまっています。 ○市民のスポーツ参加機会を増やすため、スポーツイベントの誘致やスポーツ環境の整備が求められています。

(1) 総合評価

評価	C
理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い静岡マラソンの中止や演劇等ロングラン公演の誘致見送りなど、スポーツ・文化関連の大規模事業の多くが不調となった。また、東京2020オリンピック・パラリンピック開催時においても、当初想定していた規模の交流事業が実施できず、市民が一流の芸術文化やスポーツに触れる機会を十分に提供することができていなかった。しかし、台湾、スペイン、モーリシャスといったホストタウン相手国・地域とのオンライン交流の導入や、賑わい創出イベント開催時に必要となる感染症対策に要する費用の一部助成や規模を縮小した文化事業の実施など、芸術文化・スポーツを楽しむ機会の提供を維持するための柔軟な対応ができていたことは評価できる。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
一流の芸術文化やスポーツに触れる機会が増えていると思う市民の割合	32.3% (H30)	36.3% (R4)	26.0%	71.6%	C	
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

<p>○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップといった世界規模での大会を通して、スポーツに対する市民の意識・関心が高まった。今後は、その意識の高まりを一過性のものとせず、継続的な取組みとすることで、スポーツの力によるまちづくりに活かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームタウンチームとの連携・協働事業や全国大会等の開催支援、競技団体の合宿誘致の推進</li> <li>○しずおか文化の魅力を積極的かつ効率的に発信する機会を充実させ、ポストコロナを意識した多様な文化交流の活性化を図る。</li> <li>・SNSやオンライン配信などデジタル技術の活用によるポストコロナを意識した国内外への情報発信と文化交流の促進</li> <li>○市民とアーティスト同士などが文化交流する機会と場を設けることで新たな文化の創造を促進し、活力あふれるまちづくりの推進を図る。</li> <li>・大道芸ワールドカップなど国際的フェスティバルや静岡まつりなどの大規模イベントの開催や、演劇等ロングラン公演の誘致</li> <li>・まち劇スポットなどによる市民が楽しめる時間や空間の提供の促進</li> </ul>
---

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	芸術文化を通じた交流の推進と賑わい創出		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	—	B

施策2	スポーツを活かしたMICEの推進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	B	—	—

施策3	オリンピック・パラリンピック・ラグビーW杯開催に向けた取組		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
----	----------------------------------

施策	1 芸術文化を通じた交流の推進と賑わい創出
----	-----------------------

施策の目的	本市では、総合的かつ持続的な文化の振興を図り、個性豊かなしずおか文化の創造と、文化を活かした交流による活力あふれるまちづくりに寄与するため、平成28年4月に「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」を制定しました。 平成29年3月には同条例に基づく「静岡市文化振興計画」を策定し、文化の持つ創造性を地域振興や観光・経済振興等に活かす『創造都市』としての取組を積極的に進めていくこととしました。今後は同計画に基づき、静岡らしい特色ある文化事業の実施や文化事業の開催による賑わい創出により、第3次総合計画に掲げる「世界に輝く静岡」の実現を目指します。
-------	--

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化振興課
	氏名	課長 萩原 智美

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	令和元年度は、全体目標の達成はできなかったが、イベント別で見るとほぼ目標を達成している。台風の影響で中止した羽衣まつりや、規模を縮小して開催したA級順位戦最終局などは、大幅に目標を達成できなかったため、今後、参加者数の増加に向け一層の周知が必要であるとする。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館又は利用停止になったり一部事業が中止となった。また、設定している指標「芸術文化事業来場者数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け事業の中止・規模縮小での実施となり適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館又は利用停止になったり一部事業が中止となり、イベントの中止による集客数の今後の低下が見込まれるため、今後、参加者数の増加に向け一層の周知が必要であるとする。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
	芸術文化事業来場者数	現状値：348,251人 (2017)	1	372,100人	353,691人	95.1%	a	本年度は過去2か年と比較し、事業参加者数のコロナからの回復が見られることが想定されるため、令和元年度実績の80%とする。(100未満四捨五入)
2			260,500人	228,804人	87.8%	b		
3			317,000人	213,506人	67.3%	—		
4			283,000人	—	—	—		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
文化施設における芸術文化事業の企画・開催	静岡市民文化会館、静岡音楽館、静岡科学館、静岡市美術館等の文化施設で行われる特色ある文化事業の開催		1	374,540	0	350,618	10.0	4.0	0.0	○
			2	386,415	0	303,441	10.0		4.0	
			3	392,259	0	365,239	10.0	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
大規模芸術文化事業の誘致	演劇等ロングラン公演の誘致、開催		1	0	0	0	3.0	0.0	0.0	—
			2	0	0	0	3.0		0.0	
			3	0	0	0	3.0		0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
A級順位戦最終局開催事業	家康公顕彰四百年記念事業の一環として開始した「A級順位戦最終局（旧名称：将棋名人戦第0局）」の開催		1	7,000	0	6,286	2.0	0.0	0.0	○
			2	7,000	0	6,750	2.0		0.0	
			3	7,000	0	6,972	2.0		0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	令和元年度は、全体目標の達成はできなかったが、イベント別で見ると目標を達成したのものも見受けられる。しかし、台風の影響で中止した羽衣まつりや、A級順位戦最終局の規模縮小（目標値より600名ほど減）など、大幅に目標を達成できなかったものもあり、今後の一層の周知が必要であると考え。	参加者数の増加に向け、幅広い周知が必要である。
令和2年度	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、感染拡大防止の観点から中止・規模縮小した事業が多数あり目標の達成には至らなかった。今後は、事業参加者数の回復に向けた工夫が必要である。	参加者数の回復に向けた効果的な広報の実施や、他事業・他課との連携を検討していく。
令和3年度	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、感染拡大防止の観点から中止・規模縮小した事業もあり目標の達成には至らなかった。今後は、事業参加者数の回復に向けた工夫が必要である。	新型コロナウイルスの影響もあり実績値の伸び悩みが見られているため、今後はアフターコロナを見据え、十分に対策を講じながら若年層などの取り込みも視野に入れつつ、広く市民が文化に触れる機会を創出するよう調整していく必要がある。
令和4年度		

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局 スポーツ交流課
	氏名	課長 長澤 秀紀

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
----	----------------------------------

施策	2 スポーツを活かしたMICEの推進
----	--------------------

施策の目的	本市スポーツ推進計画では、スポーツを「観る」、「する」、「支える」と大きく3つの視点で推進しています。その中でも「観る」、「する」に関連して、全国規模の大会の開催、また、静岡に根付くサッカー・野球の魅力を磨き上げることにより、静岡市民はもとより、市外、県外へも静岡市の魅力を発信することにより、市外や県外から静岡市を訪れる人を増やします。
-------	---

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソン、静岡野球ウィークなどの大規模イベントが中止となり、目標を大きく下回った。ただし、中止となったイベントの事前参加申し込み状況から、市外からの参加予定人数は把握できており、予定どおり開催されていれば、成果指標は「b」評価となったと見込まれるため、総合評価は「B」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソン、静岡野球ウィークなどの大規模イベントが中止となり、成果指標である「市外から各種大会に参加する人の数」の実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模イベントである静岡マラソンが中止となり、成果指標である「市外から各種大会に参加する人の数」の実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	市外から各種大会に参加する人の数 （人／年）		18,313人 (H27～29平均)	1	18,735人	5,019人	26.8%	d
2				19,157人	984人	5.1%	d	
3				19,578人	3,766人	19.2%	d	
4				20,000人	—	—	—	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標 成果 以外の の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
静岡マラソンの開催	①静岡マラソン開催に係る静岡マラソン実行委員会への補助金交付。 ②開催に伴う市関係機関との調整及び広報。	1	1	45,000	0	37,736	0.6	0.0	0.0	—
			2	45,000	0	436	0.6		0.0	
			3	500	10,000	240	0.6		0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
サッカー、野球によるまちづくり	①サッカーによるまちづくりとして、全国規模のサッカー大会の開催のほか、地域の賑わい創出やコミュニティ機能向上、青少年育成に関する事業などを推進。 ②野球によるまちづくりとして、市民野球熱の醸成を推進するイベント・大会の開催や情報発信等を実施。	2	1	42,732	0	34,033	3.0	1.0	0.0	○
			2	27,198	0	16,186	3.0		1.0	
			3	44,133	5,000	31,176	3.0		1.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで通りスポーツイベント・大会等を開催することが困難になっている。感染症対策を実施した安心安全な大会運営や県外参加者の受入れなどが課題となる。	今後の新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、安心安全な大会運営、県外からの参加者の受け入れ方法などについて、各イベント主催者等とともに協議を行っていく。
令和2年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで通りスポーツイベント・大会等を開催することが困難になっている。感染症対策を実施した安心安全な大会運営や県外参加者の受入れなどが課題となる。	今後の新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、安心安全な大会運営、県外からの参加者の受け入れ方法などについて、各イベント主催者等とともに協議を行っていく。
令和3年度	新型コロナウイルス感染症の影響がある中、各種イベントの規制が緩和されてきている。これまで通りのスポーツイベント・大会等の開催ではなく、より感染症対策を実施した安心安全な大会運営や県外参加者の受入れなどが課題となる。	今後の新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、安心安全な大会運営、県外からの参加者の受け入れ方法などについて、各イベント主催者等とともに協議を行っていく。
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
----	----------------------------------

施策	3 オリンピック・パラリンピック・ラグビーW杯開催に向けた取組
----	---------------------------------

施策の目的	2019年にラグビーワールドカップが、2021年には東京2020オリンピック・パラリンピックという世界レベルの国際大会が国内で開催されます。これらの大会では事前合宿が行われることが多く、この合宿を静岡市内に誘致することにより、トップアスリートによる市民交流事業を実施するなど、スポーツに関する市民の意識の醸成を図るとともに、ジュニアの育成や国際交流機会の創出を目指します。
-------	--

評価責任者	所属	観光交流文化局 スポーツ交流課
	氏名	課長 長澤 秀紀

## （1）総合評価

総合評価	年度	評価	理由
総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	ラグビーワールドカップに係る取組では、イタリア代表の合宿受入れに加え、選手による学校訪問等を実施し、児童生徒がスポーツへの関心を高めると共に異文化への理解を深めることができた。また、東京2020オリンピック・パラリンピックに係る取組では、東京2020オリンピック・パラリンピックの予選等で試合日程等が例年と異なり、合宿件数が目標値を下回ったが、これまで誘致を続けてきたサッカー女子日本代表の合宿が市内で実施されたほか、新たにモーリシャスオリンピック委員会と覚書を締結し、東京2020オリンピック・パラリンピック時の合宿誘致を実現したため、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	東京2020オリンピック・パラリンピックに係る取組では、新型コロナウイルス感染症の影響により大会が延期となり、予定していたホストタウン相手国・地域の事前合宿受入れも来年度に延期となったが、これまで誘致を続けてきた車いす男子バスケットボール日本代表チームによる継続した合宿誘致が実現したことから、総合評価は「A」とした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、ホストタウン相手国・地域のうち、フランステコンドー代表チームの事前合宿の受入れを行うことができた。また、事前合宿が中止となったホストタウン相手国・地域を含め、応援動画の作成やオンラインを活用した交流事業を実施し、交流を深めることができたことから、総合評価は「A」とした。
	令和4年度	—	理由

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	11件以上	8件	72.7%	c	
2	2件以上	2件	100.0%	a				
3	5件以上	4件	80.0%	c				
4	8件以上	—	—	—				
指標以外の	東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿を実施したフランステコンドー代表チームとは、練習見学会での市民交流を実施した。また、合宿を実施できなかったその他のホストタウン相手国・地域とはオンライン等を活用した交流事業を多く実施し、ホストタウン相手国・地域との交流を推進した。		1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
ラグビーワールドカップ合宿等誘致事業	①イタリア代表チームの合宿受入れ(9/27~10/6)【令和元年度】	2	1	42,000	0	30,796	1.0	0.1	0.0	—
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
合宿の誘致に伴う交流事業	①ラグビーイタリア代表チームの合宿受入れに伴う市民交流事業等の実施(学校訪問、市民交流、ラグビー教室の実施など)、大会開催前の機運醸成活動及び大会期間中に行われる公式イベントでの情報発信【令和元年度】 ②台湾陸上代表の合宿受入れに伴う市民交流事業の実施(学校訪問、民間事業者等との連携事業など)【令和元年度】 ③大会の延期により、予定していたホストタウン相手国・地域(台湾、スペイン、モーリシャス)の合宿受入れが中止となったが、オンライン等を活用した市民交流事業の実施	3	1	上下事業に含む	0	上下事業に含む	—	—	—	—
			2	下事業に含む	0	下事業に含む	—	—	—	
			3	下事業に含む	—	下事業に含む	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
東京2020オリンピック・パラリンピックの合宿等誘致事業	①2020年東京オリパラ事前合宿誘致方針に基づく誘致活動 ②東京2020オリンピック・パラリンピック事前合宿の受入れ(台湾陸上)【令和元年度】 ③国内競技団体等への誘致活動	1	1	44,656	0	27,881	1.4	0.1	0.0	○
			2	41,256	0	4,291	1.4	—	0.1	
			3	45,395	13,943	34,647	5.0	—	0.2	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例(◎:計画より進んでいる、○:計画どおり進んでいる、△:計画より遅れている、—:計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	①東京2020オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせない取組 ②国内競技団体の継続した市内合宿の誘致	①コロナ禍の渡航制限等により、合宿受入れ等の直接的な人的交流の実施が難しい中、オンライン等を活用した間接的な交流に切り替え、相手国・地域との交流を深めていく。 ②市内合宿時に競技団体から要望等を聴取し、随時、施設側と調整を図る。受入施設と連携を図り、継続した市内合宿の誘致に取り組んでいく。
令和2年度	①東京2020オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせない取組及び大会を見据えた取組 ②国内競技団体の継続した市内合宿の誘致	①コロナ禍の渡航制限等により、合宿受入れ等の直接的な人的交流の実施が難しい中、オンライン等を活用した交流をより一層推進し、相手国・地域との交流を深めていく。 ②市内合宿時に競技団体から要望等を聴取し、随時、施設側と調整を図る。受入施設と連携を図り、継続した市内合宿の誘致に取り組んでいく。
令和3年度	①東京2020オリンピック・パラリンピックは閉幕したが、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせない取組 ②国内競技団体の継続した市内合宿の誘致	①東京2020オリンピック・パラリンピックが閉幕したが、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせないために、オンライン等を活用した交流に取り組んでいく。 ②市内合宿時に競技団体から要望等を聴取し、受入施設と連携を図り、継続した合宿の誘致に取り組んでいく。
令和4年度	—	—